2024年9月5日(木)

【1回目登壇】

皆様こんにちは。日本維新の会の寺井大地です。本定例会におきまして、質問の機会をいただきありがとうございます。2日目となり、重複する質問もごございますが、私の観点から質問をさせていただきます。それでは、早速質問に移らせていただきます。

子どもの SNS 利用とそのトラブルについてです。

全国的に子どもたちが SNS を介したトラブルに巻き込まれていることが増えてきており、特に小学生の被害が過去最多となっております。内閣府が令和 5 年度にまとめた青少年のインターネット利用環境実態調査では、現在、青少年の 98.4% がインターネットを利用しており、スマートフォンを使っている人は 74.3%、GIGA 端末が 69.7%、ゲーム機が 65.9% となっています。特にスマートフォンの利用は、10 歳までは親と一緒に使うことが多いですが、それ以降は子ども専用のスマートフォンの割合が増えています。インターネットの利用目的としては、全ての年齢層で「動画を見る」が最も多く、次に「ゲームをする」、「検索をする」、「音楽を聴く」と続きます。

次に、警察庁生活安全局が出している少年非行及び子供の性被害の状況では、令和 5 年に SNS に起因する事犯の被害児童数は 1,665 件あり、そのうちスマートフォンを介したものが 1,619 件と、ほぼ 100% に近い状況です。被害児童の学職別に見ると、小学生が過去最多の 139 名となり、高校生の被害者数を中学生の被害者数が超えており、より若い世代の被害が増えてきています。また、犯罪に巻き込まれるのは、児童が最初に SNS に投稿したことが最も多く全体の 74.2% (1,235 件) となっています。

ここでお伺いします。

Q1-1)本市の SNS のトラブルに関わる現状についてご所見をお伺いします。

(小中高の SNS に起因するトラブルの主たる内容と推移と評価)

尼崎ベイエリアのこれからの利活用について。

尼崎の港湾部は様々な景色や観光コンテンツも多くありながら、市・県民にはあまり認識されず、秘めた可能性を十分に発揮している状況とは思えません。公害の街・治安の悪い街というイメージがある街から今では駅前も綺麗になり、暴力団組事務所がゼロになり、交通利便性の高さからも社会増もしており、阪神タイガースファーム、阪神尼崎駅のリニューアルなど、尼崎市においても経済的な活性化の動きが見えており尼崎市が、その秘めた可能性を最大限発揮して、神戸や西宮、大阪以上に魅力ある街にしてい

く使命が、市にはあると思います。

尼崎の港湾部には、様々な観光コンテンツがあり、魅せ方次第では非常に魅力あるレクリエーションエリアになります。例えば、映画にもなりましたアマロックを初めとした運河クルーズ、魚釣り公園にバーベキュー、尼崎キャナルベースでの SUP や環境学習、軟式野球場、尼崎スポーツの森ではプールにアイススケート、アマラーゴウォーターパークにフットサル、サンランド武庫川ゴルフセンターもあり、あまっ子リンリンロードによってサイクリングやジョギングも可能です。そして今後、グランピングなども考えられるかもしれません。大人から、子どもまで幅広い年代が楽しめるコンテンツが多く、しかも高速も通っており駐車場の敷地も確保しやすいことから、尼崎市外の方の利用も多く見込めるエリアです。

Q2-1) 这里でお伺いします。

尼崎の港湾部、尼崎ベイエリアに人が集い賑わいを創出する可能性について、本市はどのように捉えているのかご所見をお伺いします。

地域の見守り活動とドローンの活用について。

地域の見守り活動についてお伺いします。

子どもたちの登校下校での見守り活動、自治会をはじめとしたさまざまな方のご協力で子どもたちが安全に登下校ができています。

しかし、どの小学校区の見守りもやはり高齢化が非常に進んでおり、ある学校区では発足当初は数十名いたボランティアも、今では数名となり、最高齢は90歳を超えており存続が難しいとのことで、こういった見守り活動の存続も難しくなっていると感じます。

Q3-1) 这里でお伺いします。当局が把握している見守り活動の団体数や見守り人員のここ近年の推移の傾向と、課題を教えてください。

以上で1回目の質問は終わります。2問目以降は一問一答方式で質問をさせていただきます。

【2回目登壇】

ご答弁ありがとうございました。

本市においても SNS に起因したトラブルは増加傾向にあるということでした。全国的に増加傾向にある被害をいくつかご紹介すると、例えば、児童売春では、令和 5 年 3 月、32 歳の看護師の男が、オンラインゲームで知り合った当時 13 歳の男子中学生に、ゲーム用機器を供与して、車両内でわいせつな行為をした。令和 4 年 2 月、37 歳の無職の男が、SNS アプリの仮想空間上で「アバター」を使って知り合った女子児童(当時 10 歳)に服を脱ぐように要求し、タブレット端末で下半身を撮影させて、同画像を SNS を通じて送信させ、児童ポルノを製造したなどがあります。子どもを性的搾取から守る必要が喫緊の課題だと認識しています。

ここで伺います。

Q1-2) SNS に起因したトラブルを防止するために、どのような対策を取られていますか。

答弁ありがとうございます。

警察のサイバー犯罪対策課の講義や、スマホサミットの取り組み、また道徳の時間での授業など、様々啓発を行なっていただいていることがよくわかりました。ここで気になるのが、「保護者への啓発」です。スマートフォンは 10 歳以降で占有して使うことが多くなり、児童が行なっているスマホの利用が、保護者の認識と違っていることが多々あります。例えば、親の知らない間に、顔も知らないゲームで知り合った人と仲良くなり友達と認識してしまう、SNS を通じて知らないうちに個人情報を共有してしまうなどです。

Q1-3) ここで伺います。

情報モラルに関する講義やスマホサミットなどに、どの程度の割合で保護者が参加されているのでしょうか。(サイバー対策課の講義など生徒と受ける保護者の割合は、学校現場の方には 2~3 割程度の参加に留まると聞いている。) また、保護者にも参加していただくために課題だと感じていることを教えてください。

愛知県警の取り組みをご紹介します。愛知県警では、自画撮り被害が増えるなか、被害防止対策への協力の申し出があったアプリ開発会社及び県内大学と連携し、ワークショップ、実証実験等の研究試行を重ね、自画撮り被害防止アプリ「コドマモ」を開発されました。このアプリが非常に優秀で、子どもが猥褻な画像をスマートフォンで撮影・保存した際に、AI が撮影データを判別し、画像を削除するように通知が表示されると

もに、これ保護者にも通知されます。その他にも、位置情報の確認や、アプリ利用時間の管理、課金の防止など、様々な機能を持つアプリになっており、アプリを利用した3人に2人は、わいせつ画像の送受信に関する犯罪に巻き込まれないと思うと回答があったということです。

Q1-4) 这里お伺いします。

こういったアプリを推奨していくことも大事だと思うが、当局の所見をお伺いします。

このコドマモの利用者のアンケートで非常に興味深かったのが、性被害などトラブルに遭った際は、誰に相談するか?という質問に対し、保護者の回答は「親に相談すると思う」が72%に対して、中学生は「親に相談する」という回答は21%と極めて低く、親子間の認識で大きなギャップがあったことです。

相談する時の保護者とのギャップ、利用実態に関する保護者とのギャップ。

子どもたちの方が保護者よりリテラシーはあるかもしれませんが、モラルをしっかりと系統だてて教育で教えてあげる必要がある。他市の好事例で、埼玉県戸田市では情報モラルスクールという情報モラル学習サイトを作成して教育に利用していたり、同じ埼玉県の深谷市では、小学1年生から中学3年生まで毎年の指導計画を立て、系統的・計画的な情報モラル指導を行っています。本市ではスマホサミットを続けてこられていますが、全校ではありません。全市的に行なっていくや、他市のようにしっかりと指導計画をたて進められていくことも必要かと思うが

Q1-5 这里お伺いします。

本市の情報モラルの教育において、今後どのように取り組まれていきますか。ご所見をお伺いします。

ご答弁ありがとうございます。

兵庫県、尼崎市、民間団体がそれぞれ大人も子どもも楽しめる魅力的なコンテンツを持っているにもかかわらず、それを一体的に連携させた取り組みが見られません。尼崎市ホームページや、あまがさき観光局のホームページ等や取組をみても、まだまだ連携・発信していく余地は大いにあると考えます。

Q2-2) 这里お伺いします。

県、市、民間の団体のコンテンツ（や取り組み）を市が主体的に連携させる取り組みを進めるべきだと思うが、ご所見をお伺いします。（例えば、対象エリアの施設間の連携を促す連絡協議会的な役割等）

また、中でも尼崎運河は訴求力のある強いコンテンツの1つだと思います。公共交通機関からも比較的近く川沿いに桜がありリンロードが整備されている蓬川、広い船の待機場所にもなりうる南堀、阪神尼崎駅に近い中在家、21世紀の森に近い西堀、キャナルベースが整備され環境学習も進む北堀と、エリア分けをすればそれぞれのエリアに合った運河の活用法があり、それぞれSUPだけではなく遊覧船やドローン船、道の駅の整備などの取り組みも組み込んでいけば運河を中心に活性化が見込まれます。

Q2-3) 这里お伺いします。

運河は非常に訴求力のあるコンテンツです。だからこそ、尼崎市民から広く意見を聞きながら市が主体的に利活用を検討していくべきだと思うが、ご所見をお伺いします。

まとめ）兵庫県では尼崎フェニックス事業用地及び尼崎の森中央緑地の活用に関するサウンディング型調査の結果が出ており、万博後には尼崎の森中央緑地はBBQなどができるスペースがあれば良い、スケールメリットを享受するためできる限り広い範囲の一体活用を、など様々な意見が出ています。これを見ると、兵庫県南部を盛り上げるため官民連携の広域的な活性化が期待できるのではないかと明るく見えます。尼崎市としても前のめりで、むしろ自分からやってしまうくらい勢いでお願いしたいと思います。

見守り活動の課題についてお伺いできました。

国でも、「やってみよう！登下校見守り活動ハンドブック」などを作成し、少しでも多くの方の目に触れることで人員を確保していこうということなど、様々されておりますが、どの程度自治体に落とし込まれ、また効果があるかは少し疑問に思うところがあります。

Q3-2) ここでお伺いします。

見守り活動の存続について、本市が行なっていることを教えてください。

教職員の負担軽減、そして持続可能な見守り活動を目指して、ドローンを活用した実証実験も始まっています。例えば三重県や愛知県豊田市でドローンを利用した見守り活動が始まっており、こういった取り組みにもチャレンジしていくべきじゃないでしょうか。

Q3-3) ここでお伺いします。

ドローンを始めとした負担軽減に資する取り組み等、市が率先して進めるべきではないか。また、市民や団体からそういった提案があった場合はどのように進めるのか。